

科目名称	動物検体検査学
授業コード	AC256
英語名称	Clinical Examination of Animal Disease
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	渡辺 隆之
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>(A) 社会的基礎能力 動物の臨床検査の原理、動物の病気ならびに検査方法を習得することにより、社会的な基礎能力を強化する。</p> <p>前半では、総論として臨床検査で重要な精度管理やヒューマンファクターや医療事故について講義する。後半は各論として、イヌ・ネコを中心としたペット動物の検査方法について学ぶ。病原微生物や人獣共通感染症の法律に基づいた検査方法や一般の臨床検査会社や病院で行っている検査について明らかにする。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	獣医師ならびに衛生検査技師として、動物病院ならびに臨床検査会社を経営して、臨床と検査の現場において、様々な疾病の検査をしてきた立場から、精度管理、検査方法、様々な疾病、検査会社で起こりうるトラブルについて話します。
到達目標	<p>1.豊かな教養と倫理観をみにつける。感染症の検査方法ならびに技術を習得する。社会や病院における、検査の在り方、成り立ち、法律的な知識といった社会における検査学そのものの役割を知ってもらいたい。</p> <p>2.ヒトと動物の共生はアニマルサイエンス学科の中核であるが、CP、DPに一部賛同できない部分がある。理由は単純で、新型コロナウイルスは人獣共通感染症である。ところが防疫ができていない。ヒトはワクチン接種しても49%もの人が感染する。動物の防疫は皆無である。この状況で共生は安全を担保できるとは思えない。学生には共生が難しいことを教えたい。</p> <p>3.国際的視野を広げ、人獣共通感染症や検査方法の理解を深める。基礎科目の動物病原微生物学、応用科目の動物保健衛生学、専門科目の動物疾病学を共に修得することが大切である。</p> <p>4.動物検体検査学という科目は医学や獣医学においては応用分野の科目群のひとつである。動物の臨床検査ならびに疾病とは何かを理解してもらい、検査方法に興味をもってもらうことにより応用分野の専門知識を修得できる。</p> <p>5.学科の卒業要件単位以上を修得し、卒業研究を完了したもので、学科として育てたい人間像について十分に身につけていると認められる者に学士(理学)の学位を授与する。</p>
計画・内容	<p>1) 精度管理の仕組みを学習する</p> <p>2) ヒューマンファクターと医療事故。なぜ事故が発生するのか、そのメカニズムを学習する</p> <p>3) 臨床検査一般</p> <p>4) 臨床検査一般</p> <p>5) 微生物学ならびに公衆衛生学。微生物学とは、公衆衛生学とはどのような学問か、感染症の基礎を学ぶ</p> <p>6) 細菌の同定方法。細菌同定の基本、細菌同定の心得を学ぶ</p> <p>7) 細菌の同定方法。細菌同定の方法を学ぶ</p> <p>8) 真菌の同定方法</p>

計画・内容	<p>9) ウイルスの同定方法</p> <p>10) 原虫の同定方法</p> <p>11) 寄生虫の同定方法</p> <p>12) 学生による課題発表</p> <p>13) 家畜伝染病予防法に基づく動物の検査、動物の微生物学的な検査方法</p> <p>14) 人と動物の共通感染症と検査方法</p> <p>15) 総括</p>
授業の進め方	<p>講義は、パワーポイントを使用して授業を進める。また、参考書およびプリントを用いる。現実の症例をできるだけ多く紹介して理解を深める。1時限を使い学生に課題発表をさせる。授業を履修するにあたって、授業時間外に予習ならびに復習をする。予習復習はノートを作ること。ネットに頼らず参考書等で調べること。調べた内容は必ずノートに記すること。</p>
能動的な学びの実施	<p>該当しない。</p>
授業時間外の学修	<p>復習時間は項目ごとに最低20分（合計30時間）とする。</p> <p>予習・復習の合計時間は60時間とする。</p> <p>予習：予習時間は各項目を最低20分とする（合計30時間）：1) 精度管理ならびに精度管理の法律にどのようなものがあるか調べる。2) ヒューマンファクターとして、なぜ事故が起こるのか、事故が起きる環境や特徴にどのようなものがあるか調べる。3) 4) 臨床検査にどのようなものがあるか調べる。5) 公衆衛生学とはどのような学問か調べる。6) 7) 細菌同定の基本にどのようなものがあるか調べる。8) 真菌の同定方法にどのようなものがあるか調べる。9) ウイルス同定にどのようなものがあるか調べる。10) 原虫の同定にどのようなものがあるか調べる。11) 寄生虫の形態ならびに同定にどのようなものがあるか調べる。12) 学生による課題発表：個人に出した課題の勉強。13) 家畜伝染病予防法ならびに検査でどのようなものがあるか調べる。14) 人と動物の共通感染症と検査にはどのようなものがあるか調べる。</p>
教科書・参考書	<p>参考書 福所秋雄 他 動物微生物検査学（近代出版）</p>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・成績はレポート（試験様式）（80%）、小テスト（20%）を総合して評価する。出席が2/3未満のものはたとえレポート、小テストを提出していたとしても成績を不可とする。 ・小テストは返還して答え合わせをする。レポート（試験様式）に関しては試験に準ずるので返還は行わないものとする。 ・資料配布に関しては講義の進み具合を見ながら、また、小テストの出来具合に合わせて授業内容にあった資料を配布する。
課題等に対するフィードバック	<p>小テストに関しては講義中に補足する。</p>
オフィスアワー	<p>キャンパススクエアを参照</p>
留意事項	<p>動物検体検査学は、応用科目に位置づけられており、動物を学ぶものが、疾病の検査方法を勉強できるいい機会でもあります。動物に触れることが多い学科であるので、他の科目や実習でも病気について知識が活かされると推測される。特に精度管理が理解できれば、卒業後、一般社会において品質管理や品質保証について応用が効く。事前に履修してほしい科目は、基礎科目の動物病原微生物学、応用科目の動物保健衛生学、専門科目の動物疾病学である。特に基礎科目である動物病原微生物学の受講は必須であるので必ず履修すること。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>非対面の場合、できればzoomでの講義を行いたい。zoomでの講義であれば通常の対面講義と同じ進め方をする。もし、何らかの事情でzoomでの講義が行えない場合は課題形式の講義として行う。この場合は項目に準じて課題をだす。</p> <p>非対面で講義の場合、試験が非対面で行うことになった時の成績のつけ方：</p>